

弔 辞

太田時男先生を偲んで

横浜国立大学大学院 太田健一郎

2009年6月9日我が国に於ける水素エネルギーのパイオニア、水素エネルギー協会の創始者太田時男先生がお亡くなりになりました。

私が時男先生を知ったのは1971年頃、ちょうど大学院を修了する前、当時、ボックリスの本で、新たに出てきた水素エネルギーに関する勉強を始めた頃だったと思います。その頃既に水素エネルギー研究者としての先生のお名前は我が国で知られた存在でした。

その直後に世界を襲ったオイルショックで水素エネルギーが一躍脚光を浴びることになります。二次エネルギーたる水素が、石油、石炭と同列に評価されるのは不思議かもしれませんが、原子力、自然エネルギーいずれのエネルギー源を用いても水素に変換が出来るので注目されました。第1次の水素エネルギーブームです。ここで先生は太陽光を利用し、熱化学サイクルで水素を作り出すプロセスを提案され、横浜サイクルとして理論的な検討とともに、実験もされていました。また、この実証の場として、南太平洋に筏を浮かべて、そこで水素を作り、日本に輸入すると言う、壮大な構想もお持ちでした。一次エネルギーとして自然エネルギーを考えることは、クールアース50を叫ぶ現在の我が国にも通じる、先生の先見の明がなせるすべかなと思います。

ちょうどその頃、私が横浜国立大学へ赴任することが決まり、ご挨拶に伺ったとき、先生のご専門が物理と言うことを知り、大変びっくりした記憶があります。水素、それも熱化学サイクルと言えば化学屋の世界であると認識していたからです。その頃から、私も横浜国大の太田として研究活動を始めましたが、姓が同じであるところから、時男先生を「ビッグオオタ」、私を「スモールオオタ」と呼んで区別させていただいてきました。1980年東京での第3回世界水素エネルギー国際会議は時男先生の主催で大成功でした。おかげで2004年に私どもが主催して行った第15回会議も、未だ世界最大の水素エネルギー会議の地位を今も維持することが出来ています。

水素エネルギー協会は1973年に水素エネルギーシステム研究会として創立されています。時男先生は当初は幹事長というお役目だったと思いますが、設立に当たっての実質的な活動は、全て引き受けられており、時男先生が本会の創始者と言っても間違いのないと思います。この本会の創立は、欧米の水素協会、国際水素エネルギー学会の設立より早く、世界で最初の水素エネルギーに関する学会です。時男先生のご努力で、いまの水素エネルギー協会があることになりました。世界的にみても、時男先生は1970年代の当初より、国際水素エネルギー学会の副会長を務められてきており、世界の水素エネルギーを引っ張ってこられました。

先生のお亡くなりになったいま、私どもとしては、天国から、おしかりの言葉を受けないように、先生のご意志を継いで、理想の水素エネルギー社会実現のため、一層の努力をしたいと思っております。安らかにお休み下さい。



第15回世界水素エネルギー会議（2004年、横浜）
バンケットでの太田時男先生